

ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けて

Towards Development of a Learning Support System with Peer Tutoring

—ブリガム・ヤング大学ハワイ校の学習支援組織調査を例に—
 -Based on Research of Learning Support Systems in Brigham Young University-Hawaii-

渡辺 雄貴¹ 野田 啓子^{2,3} 鈴木 克明³ 美馬 のゆり⁴
 Yuki Watanabe¹ Keiko Noda^{2,3} Katsuaki Suzuki³ Noyuri Mima⁴

首都大学東京大学教育センター¹ 立命館アジア太平洋大学²
 熊本大学大学院³ 公立ほこだて未来大学⁴
 University Education Center, Tokyo Metropolitan University¹
 Ritsumeikan Asia Pacific University²
 Graduate School of Social and Cultural Sciences Kumamoto University³
 Future University Hakodate⁴

<あらまし> 近年、国内の高等教育機関において授業外学習を支援する取り組みに関する関心が高まり、多くの実践が報告されている。しかしながら、その方法や支援に携わる人員、支援内容、方法などは様々であり、機関毎の要件によって実践していることから、組織的な支援、方法論の構築などが課題となっている。一方、米国では多くの機関で支援体制を構築している。さらに、関連学協会が存在し、その支援組織が提供するプログラムに対して認証を行っている。そこで本報告では、我が国における学生支援体制のあり方について、その要件整理を行うことを目的に、チュータートレーニングの認証を受けているブリガム・ヤング大学ハワイ校を訪問し、各組織の設置目的や支援内容、組織などを調査した。その結果、多様なサービスの提供体制、組織間のゆるやかな連携、チューターの位置づけ、ピアチューター育成における質保証の仕組みがあることが分かった。

<キーワード> 学生支援、ラーニングセンター、チュータリング、調査報告

1. はじめに

今日の我が国の大学では、学修時間確保から、質的転換を求められている（中央教育審議会2012）。また、大学への入学もユニバーサル化し（トロウ 2000）、大学は多様な学生を受け入れることとなった。

こうした現状を受け、科学技術・学術審議会学術情報委員会『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）』（2013）では、コンテンツ・学習空間、人的支援の柱を基に、ラーニングコモンズをはじめとする、空間の整備だけでなく、学習者の主体的な学習を支援する方策として、学生同士が支援し合う、ピアチュータリングに注目をしている。

この一連の流れを受け、様々な学生への学習支援として、ピアチュータリングをはじめとする、ラーニングセンターが注目されている。例えば、美馬ほか（2013）は、学内にピアチュータリングを取り入れた学習支援環境を構築し、

その実践を報告している。しかし、それらの実践の一般化、システム化の方策は、国内において少なく、その構築が急務である。

一方、すでにユニバーサル化を迎えた米国では、各校棟教育機関にピアチュータリングによる学習支援を行う組織として、ラーニングセンターがある。ラーニングセンターでは、学習支援者として必要とされる資質や基礎的なスキルについてチューターの質を保証する観点から、米国における学習支援関連の学協会であるCRLA（College Reading & Learning Association）や、NADE（National Association for Developmental Education）が、養成プログラムに対する認証システムを提供し、質保証を行う試みがある（鈴木ほか 2011）。

そこで本報告では、米国を例に、高等教育機関におけるラーニングセンターの役割と位置づけについて、実務に携わるスタッフにインタビュー調査を行うことで、体系的に整理し、国内

で実践を行うための要件をまとめる。訪問したブリガム・ヤング大学ハワイ校は、関連学会であるCRLAの認証を受けており、また、国内の大学で唯一CRLA認証を受けている名桜大学(例えば津嘉山ほか 2012)が、参考にしたと事前の調査から情報を得ていたものである。

2. 調査の概要

調査は、著者らが2013年2月に米国を訪問し行った。調査対象は、前述のブリガム・ヤング大学ハワイ校を対象である。当該機関における学習支援組織である、言語センター、リーディングライティングセンター、数学教育センターを調査対象とし、CRLAの認証を受けているのは、リーディングライティングセンターのみであった。そのことから同センターを中心に調査し、言語センター、数学学習センターに関して付随的に調査を行った。その概要を示す。センターの支援体制について中心的にインタビュー調査を行った。質問項目は、(1)学習支援組織の目的、(2)学習環境(組織、センターの特徴)、(3)提供する学習支援内容、(4)組織・スタッフ体制、(5)大学における役割・位置づけなどである。各センターの概要を図1に示す。

3. 調査結果

ブリガム・ヤング大学ハワイ校はハワイ州オアフ島北部ライエに位置する私立大学である。学生数は2500人程度である。国際色豊かで70以上の国と地域から進学している。

日本からの留学生も100人以上在籍している。以下に調査項目ごとの結果を示す。

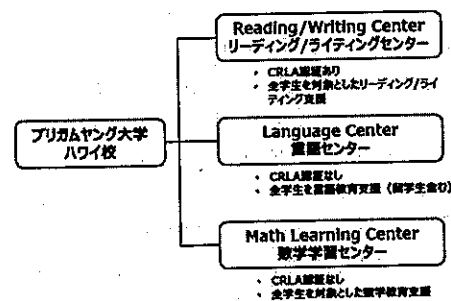


図1 ブリガム・ヤング大学ハワイ校における学生支援組織

3.1. リーディング/ライティングセンター

リーディング/ライティングセンターは、アカデミックリーディング、ライティングの学習支援を主な目的として設置している。

センターは、講義棟の1階に位置し、多くの学生が通る学内の導線上に位置している。部屋は、一般的な小規模な講義室と同等のスペースである。中央に大きなテーブルがあり、個々にピアチュータリングを行っている。また、周囲には壁で仕切られた個別学習スペースが並び、デスクトップパソコンが配置され、個別の自学学習にも対応しており、多様な学習ができるよう配慮されていることがうかがえる。利用は無料である。

センターの専任教員は2名、事務職員1名、チューターとして活動している学生は14名であった。チューター数は学期ごとに増減する。さらに、調査対象となった機関では、大学院がないため、チューターは学部生から構成される。チュータリングに関する研修は、CRLA1~3レベルのもので、この研修も授業として単位化されている。すなわち、チューターは研修として履修した授業においても、単位を得ることが出来るシステムが構築されている。チューターとして採用された後、レベル1の研修を1 Semester内で取得することが目標として課される。

チューターの勤務時間は、週15時間で、その内訳は、1時間はスタッフミーティング出席、1時間は受付デスク業務、1時間はトレーニングへの参加である。CRLA認証を持つセンターでチューターとして雇用されたという実績が、他大学に進学した際、すぐにティーチングアシスタントとして働くことが出来ているとのことであった。

チューターは義務感で学習支援を行っているというよりも、自主的な活動として行っているという印象を受けた。

ほとんどのチュータリングはピア(1対1)で行われているが、グループでのチュータリングも若干ある。さらに、オンラインによるチュータリングも試験的にしており、今後さらに拡大しようとしている。

チューターは、各自ポートフォリオを所有している。このポートフォリオは、勤務記録、チェックリストなどの業務に関わる書類などが含

まれる。

チューターはレベル別に活動の内容が多少異なっている。CRLAレベル1のチューターは、実際の講義での指導に当たらず、レベル2のチューターは小規模のクラスにおいて、ティームティーチングによる支援、レベル3のチューターは、クラスで教えることが可能である。チューターは支援した内容(個人名、科目名、担当教員名、支援内容など)を、専用の用紙に記入し、事務局はそれらを統合し、データベースを作成している。それにより、教員は、学生の学習状況を把握し、授業に生かすなどの取組みにつなげている。

講義期間である14週のうち12週は、ワークショップを開催している。ワークショップは、一般の学生を対象に、プルーフリーディング、アカデミックライティング、正しいイントロダクションの書き方などをテーマに、それぞれ2名のチューターが指導する。

学内の位置づけとして、学習支援を目的とする3つのセンターおよび、学習相談担当などは、年に4回(各クォーター)、組織を超えた情報交換を行っている。この申請の際に、前述のデータベースなどを用いて、学習状況等のすりあわせを行う。

筆者らが事前(2011年)に調査した名桜大学言語学習センターは、このセンターの学習支援方法、運営方法を参考にし、構築していることがわかる(津嘉山ほか 2011)。どちらのセンターにも核となる人物が教職員として在籍し、その大学のニーズを踏まえた上で、中長期的な視野を持ったセンター運営方針を持てる体制づくりが、その運営に多分に影響していると言えよう。支援内容やその特性があるセンターにおいては、これら学習支援を目的としたセンターの運営を目的とした専門職の育成も重要であろう。

3.2. 言語センター

ブリガム・ヤング大学ハワイ校の在校生の出身地別の割合は、太平洋諸国11.58%、アジア23.31%、ハワイ州12.81%、アメリカ合衆国47.27%、その他5.04%であるように、留学生が多く、英語を含めた言語学習支援が重要な課題となっている。そういった理由から言語センターは設立された。

言語センターは、リーディング/ライティングセンター同様に別棟の講義棟1階に位置し、学生が入室しやすいよう配慮している。

センターは、コンピュータールームとラウンジからなり、コンピュータールームは、18台のデスクトップパソコンが設置されておりCALLシステムが導入されている。コンピュータを用いた学習支援は、速読を目的としたものや、オーラルコミュニケーションを目的にしたものなどがあり、個々の学生の目標に合わせ、個別学習を行っている。ラウンジには、DVDや書籍が数多くあり、貸出しを行っている。貸出し際にはオリジナルの確認テストも添付し、学習を促している。利用料は無料である。

チューターの多くは、TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages) コースの学生であり、日常的な学習がチュータリング活動に役立っていることから、センター独自の研修の必要性が低いと考えられる。

センターの開室時間は、7:00-23:00であり、学生は、言語センターが開講する授業について、毎週授業時間外にチュータリングを受けることが必修となっており、週1回授業があるクラスの場合、30分のチュータリングが必要である。このチュータリングを3回欠席すると、単位取得の要件を満たしていないと判断される。

なお言語センターは、今後CRLA認証を受ける予定でとなっている。

3.3. 数学学習センター

数学学習センターは、主に数学を専攻する学生のために開設されている。1名の専任の教職員が中心となって運営し、数名のチューターが学習支援にあたる。

センターは、数学コースのある建物の1階に位置し、開室時間は、8:00-22:00で、利用は無料である。

数学学習センターは、数台のデスクトップパソコンが常設されており、学生は各自の課題を行っている。

主な、学習支援内容は、数学コースで実施されている定期考査の試験問題を復習することや、日々の学習の予習・復習である。

4. まとめ

調査対象となった大学における学習支援は、それぞれのニーズに応じ、運営されている。そのため、対象、内容、組織・スタッフ体制、育成方法、学内における位置づけは多様であることが明らかになった。

各センターには、対象となる科目に関連する修士・博士号を持つスタッフが学生支援業務に従事し、各人が有する専門知識と経験を発揮した専門的な支援を展開している。これは、同様の目的を有する組織では、重要な観点である。

名桜大学での学習支援組織も、言語センター、数理学習センターとして運営されていることから、これらの学習支援に対するニーズは、初年時教育やリテラシー教育として、共通のものと言えよう。

また、教職員だけではなく、学生自身をリソースとして大学内に公式な制度として組織内に位置づけることで、学習者と学習支援者の両方の成長を促し、ひいては、学生全体の学習経験の豊富化および質保証に貢献するサイクルが築かれていることが示唆される。

5. おわりに

本調査である程度の成果は得られたものの、学習支援組織を類型化（モデル化）に向け、さらなる調査の必要性が見えてきた。教員または職員に必要とされる知識やスキル、経験、およびそのような教職員の確保と養成、質の高い学習支援を提供可能な学生スタッフ（ピアチューター）育成に必要な要件、組織間の連携や環境整備（施設面、組織運営面等）について他大学の事例等、調査を継続する。

それぞれの組織モデルについて評価し、メリット・デメリットを明らかにした上で、我が国の高等教育機関における学習支援システムの構築に合致するモデルを提案する予定である。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 24300287 の助成を受けたものです。

参考文献

中央教育審議会（2012）新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学

び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm（参照日 2014年1月17日）

Facts of Brigham Young University-

Hawaii : <http://about.byuh.edu/facts>（参照日 2014年1月17日）

科学技術・学術審議会学術分科学術情報委員会（2013）学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）、

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm（参照日 2014年1月17日）

Math Learning Center, Brigham Young University Hawaii :

<http://math.byuh.edu/mathlab>（参照日 2014年1月17日）

マーチントロウ（著）、喜多村和之（編訳）

（2000）高度情報社会の大学、玉川大学出版部

美馬のゆり、鈴木克明、椿本弥生、渡辺雄貴、根本淳子、大塚裕子（2013）ピアチューター

リングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発。日本教育工学会第29回全国大会講演論文集、167-170

名桜大学言語学習センターウェブページ：

www.meio-u.ac.jp/llc/（参照日 2014年1月17日）

Reading and Writing Center, Brigham Young University-Hawaii :

<https://readingwritingcenter.byuh.edu/>（参照日 2014年1月17日）

鈴木克明、美馬のゆり、山内祐平（2011）大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか：学習センター関連資格制度についての米国調査報告。日本教育工学会研究論文集 11-1:181-186

津嘉山淳子、Stephen A. Templin B（2011）名

桜大学言語学習センターの活動とCRLA証明書（ITTPC）、第1回リメディアル教育学会テーマ研究会予稿集、16-17